

[2] アンティグア・バーブーダ

1. アンティグア・バーブーダの概要と開発課題

1981年に英国から独立、それ以前から政権を担っていたアンティグア労働党（ALP：Antigua Labour Party）のV.バードが初代首相となり、1994年からは同首相の次男であるL.バード首相が政権を担った。しかし、2004年3月の総選挙において野党統一進歩党（UPP：United Progressive Party）が圧勝し、政権交代が行われた。ただし、スペンサー首相率いる新政権下でも大幅な政策変更は行われず、既存の政策の見直しと透明化を図っている。

経済面では、観光業は非常に好調でGDP（1,030.5百万ドル）の半分以上を占め、雇用の約3割を占めている。しかしながら、観光業のみに頼る経済体系を変えようと外貨獲得のため、オンライン賭博サービスを推進し、大型建設事業による建設業の好況もあり、7年連続のプラス成長を遂げ、2007年には5.5%の実質GDP成長率を達成し、一人当たりGDPは12,561ドルを記録した。さらに、80年代はじめに開始されたオフショア金融部門が90年代以降伸びている。観光業を中心として、東カリブ諸国の中では比較的安定した経済運営を行っている一方、依然として、欧米からの観光客の動向やハリケーン等の自然災害に対して大きな影響を受けやすい脆弱な経済構造といえる。

我が国との関係は、1993年より開始された日・CARICOM事務レベル協議、駐日名誉領事館の設置（1997年5月）、駐日大使の任命（1997年7月）等を通じ、強化されつつある。また、2006年5月末にスペンサー首相が訪日し、小泉総理（当時）、麻生外相（当時）と会談を行った。

アンティグア・バーブーダ

表－1 主要経済指標等

指 標			2006年	1990年
人 口 (百万人)			0.1	0.1
出生時の平均余命 (年)			—	74
G N I	総 額 (百万ドル)		911.15	346.27
	一人あたり (ドル)		11,050	5,740
経済成長率 (%)			11.5	2.5
経常収支 (百万ドル)			—	-30.99
失 業 率 (%)			—	—
対外債務残高 (百万ドル)			—	—
貿 易 額 ^(注1)	輸 出 (百万ドル)		—	345.30
	輸 入 (百万ドル)		—	340.56
	貿 易 収 支 (百万ドル)		—	4.74
政府予算規模 (歳入) (ECドル)			—	—
財政収支 (ECドル)			—	—
債務返済比率 (DSR) (対GNI比, %)			—	—
財政収支 (対GDP比, %)			—	—
債務 (対GNI比, %)			—	—
債務残高 (対輸出比, %)			—	—
教育への公的支出割合 (対GDP比, %)			—	—
保健医療への公的支出割合 (対GDP比, %)			—	—
軍事支出割合 (対GDP比, %)			—	—
援助受取総額 (支出純額百万ドル)			3.28	4.61
面 積 (1000km ²) ^(注2)			0.4	
分 類	D A C		高所得国	
	世界銀行等		iv / 高所得国	
貧困削減戦略文書 (PRSP) 策定状況			—	
その他の重要な開発計画等			—	

注) 1. 貿易額は、輸出入いずれもFOB価格。

2. 面積については“Surface Area”の値（湖沼等を含む）を示している。

表－2 我が国との関係

指 標			2007年	1990年
貿易額	対日輸出 (百万円)		3.74	96.84
	対日輸入 (百万円)		3,634.24	1,399.08
	対日収支 (百万円)		-3,630.50	-1,302.24
我が国による直接投資 (百万ドル)			—	—
進出日本企業数			—	—
アンティグア・バーブーダに在留する日本人数 (人)			3	—
日本に在留するアンティグア・バーブーダ人数 (人)			5	—

表-3 主要開発指数

開 発 指 標		最新年	1990年
極度の貧困の削減と飢饉の撲滅	所得が1日1ドル未満の人口割合 (%)	—	
	下位20%の人口の所得又は消費割合 (%)	—	
	5歳未満児栄養失調割合 (%)	10 (1996-2005年)	
初等教育の完全普及の達成	成人 (15歳以上) 識字率 (%)	—	—
	初等教育就学率 (%)	—	—
ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上	女子生徒の男子生徒に対する比率 (初等教育)	—	
	女性識字率の男性に対する比率 (15~24歳) (%)	—	
乳幼児死亡率の削減	乳児死亡率 (出生1000件あたり)	11 (2005年)	—
	5歳未満児死亡率 (出生1000件あたり)	12 (2005年)	—
妊産婦の健康の改善	妊産婦死亡率 (出生10万件あたり)	—	
HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止	成人 (15~49歳) のエイズ感染率 (%)	—	
	結核患者数 (10万人あたり)	9 (2005年)	
	マラリア患者数 (10万人あたり)	—	
環境の持続可能性の確保	改善された水源を継続して利用できる人口 (%)	91 (2004年)	—
	改善された衛生設備を継続して利用できる人口 (%)	95 (2004年)	—
開発のためのグローバルパートナーシップの推進	債務元利支払金総額割合 (財・サービスの輸出と海外純所得に占める%)	—	—
人間開発指数 (HDI)		0.815 (2005年)	—

2. アンティグア・バーブーダに対するODAの考え方

(1) アンティグア・バーブーダに対する ODA の意義

アンティグア・バーブーダは、東カリブ諸国における中心的な国であるが、基幹産業である観光業、農業及び水産業は、自然災害等外的要因に大きく左右されるため、経済基盤は脆弱であり、経済の安定のために ODA により側面支援を行うことは、ODA 大綱の重点課題の一つである「持続的成長」の観点からも重要である。

また、アンティグア・バーブーダは、水産資源を持続的に活用した水産業の発展を目指していることから、同分野での支援を必要としている。カリブ地域と我が国は、海洋生物資源の持続的利用の立場から共通の利害を有しており、同国との協力関係は我が国にとって重要である。

(2) アンティグア・バーブーダに対する ODA の基本方針

アンティグア・バーブーダは、人口わずか 8 万人 (2006 年) という小規模国家であること、所得水準が高い (一人当たり GNI: 11,050 ドル、2006 年) ことを踏まえ、技術協力及び水産無償資金協力を中心に協力をを行っている。

(3) 重点分野

2000 年 11 月 8 日に東京で開催された、第 1 回目・CARICOM 閣僚レベル会合において策定された「21 世紀における日・CARICOM 協力のための新たな枠組み」に基づき、以下を重点分野としている。

(イ) 良い統治、(ロ) 貧困削減、(ハ) 環境と防災、(ニ) 中小企業開発、(ホ) 観光・水産・農業、(ヘ) 貿易・投資促進、(ト) 情報通信技術

また、その後も年一回の割合で、日・CARICOM 事務レベル協議を重ねており、同地域に対し、上記重点分野に関する広域案件の発掘に努めることとしている。

3. アンティグア・バーブーダに対する2007年度ODA実績

(1) 総論

2007年度のアンティグア・バーブーダに対する技術協力は0.32億円（JICA経費実績ベース）であった。2007年度までの援助実績は、無償資金協力38.62億円（交換公文ベース）、技術協力4.71億円（JICA経費実績ベース）である。

(2) 技術協力

行政、保健医療分野に7名の研修員を新規に受け入れ、1名の専門家を新規に派遣した。

表-4 我が国の年度別・援助形態別実績（円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース）
（単位：億円）

年 度	円 借 款	無償資金協力	技 術 協 力
2003年	—	1.68	0.85 (0.84)
2004年	—	7.53	0.20 (0.20)
2005年	—	—	0.06 (0.06)
2006年	—	—	0.22 (0.17)
2007年	—	—	0.32
累 計	—	38.62	4.71

注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。草の根・人間の安全保証無償資金協力と日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。
3. 2003～2006年度の技術協力においては、日本全体の技術協力事業の実績であり、2003～2006年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2007年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。

表-5 我が国の対アンティグア・バーブーダ経済協力実績

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

暦 年	政府貸付等	無償資金協力	技 術 協 力	合 計
2003年	—	1.92	0.82	2.74
2004年	—	1.04	0.23	1.27
2005年	—	5.36	0.06	5.42
2006年	—	1.84	0.15	1.99
2007年	—	—	0.21	0.21
累 計	—	32.39	4.14	36.54

出典) OECD/DAC

注) 1. 政府貸付等及び無償資金協力はこれまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(政府貸付等については、アンティグア・バーブーダ側の返済金額を差し引いた金額)。
2. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁及び地方自治体による技術協力を含む。
3. 四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。

表-6 諸外国の対アンティグア・バーブーダ経済協力実績

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合 計
2002年	日本 8.75	英国 2.33	カナダ 0.07	フランス 0.02	米国 -0.06	8.75	11.11
2003年	日本 2.74	英国 0.24	オランダ 0.14	カナダ 0.06	フランス 0.01 ドイツ 0.01	2.74	3.04
2004年	日本 1.27	英国 0.07	カナダ 0.05	フランス 0.02	ドイツ 0.01	1.27	1.24
2005年	日本 5.42	カナダ 1.58	ギリシャ 0.04	フランス 0.03	オーストラリア 0.01 オーストリア 0.01	5.42	6.92
2006年	日本 1.99	カナダ 0.06	オーストリア 0.05	ギリシャ 0.02	スペイン 0.01	1.99	1.94

出典) OECD/DAC

表－7 国際機関の対アンティグア・バーブーダ経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2002年	CEC 2.57	CDB 0.87	GEF 0.49	UNTA 0.12	—	—	4.05
2003年	CDB 1.12	CEC 0.55	UNTA 0.30	UNDP 0.02	—	—	1.99
2004年	CDB 0.91	CEC 0.44	—	—	—	—	1.35
2005年	CEC 0.31	UNTA 0.03	CDB -0.13	—	—	—	0.21
2006年	CEC 1.10	UNTA 0.04	CDB -0.01	—	—	—	1.13

出典) OECD/DAC

注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表－8 我が国の年度別・形態別実績詳細（円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース）

(単位：億円)

年度	円 借 款	無 償 資 金 協 力	技 術 協 力
2002年度までの累計	なし	29.41億円 (内訳は、2007年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index/shiryo/jisseki.html))	3.31億円 研修員受入 28人 専門家派遣 6人 調査団派遣 36人 機材供与 28.17百万円
2003年	なし	1.68億円 水産センター建設計画 (1/2) (1.68)	0.85億円 (0.84億円) 研修員受入 4人 (3人) 調査団派遣 15人 (15人)
2004年	なし	7.53億円 水産センター建設計画 (2/2) (7.53)	0.20億円 (0.20億円) 研修員受入 7人 (7人)
2005年	なし	なし	0.06億円 (0.06億円)
2006年	なし	なし	0.22億円 (0.17億円) 研修員受入 5人 (4人) 専門家派遣 1人 (1人) 調査団派遣 2人
2007年	なし	なし	0.32億円 研修員受入 7人 専門家派遣 1人 機材供与 0.41百万円
2007年度までの累計	なし	38.62億円	4.71億円 研修員受入 49人 専門家派遣 8人 調査団派遣 51人 機材供与 28.57百万円

注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。

2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。草の根・人間の安全保障無償資金協力と日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。

3. 2003～2006年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2003～2006年度の()内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2007年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。

4. 調査団派遣にはプロジェクトファインディング調査、評価調査、基礎調査研究、委託調査等の各種調査・研究を含む。

5. 四捨五入の関係上、累計が一致しないことがある。

図－1 当該国のプロジェクト所在図は942頁に記載。

プロジェクト所在図

カリブ諸国

